

〇〇さんの、そこが知りたい!

Vol.11

このコーナーでは、契約者の中で「野沢・飯山をメインに事業を行なっている方」に向けてインタビューさせてもらっています。お客さま同士が繋がりが合い、地元がより盛り上がっていったらいいな~と思っています。



ご好評いただいておりますこのコーナー、第11回目の今回は...

タイコア合同会社の
ロビンソン・ガードナーさん、
奈津子さんです!

●雑誌

「Outdoor Japan Traveler」

「The Surfer's Journal 日本語版」

●Yoji Nozawa (真湯・宿)

●「The Craft Room」(長坂・カフェ&バー)

●「Winterland Lodge&taproom」

(横落・餃子など食事、宿泊)

【インタビューは2020/10/9 オシャレなご自宅にて】



お二人の事業の内容を教えてください。

G: 英語でダイジョウブ?

僕: ハイ、大丈夫です。奈津子さんに(通訳を)やってもらうから。

(三人)はははは!

G: 20年前にOutdoor Japanという雑誌とメディアのバイリンガルでプロモーションする仕事を始めて、今は「Outdoor Japan TRAVELER」という雑誌と「The Surfer's Journal」っていうアメリカの雑誌なんですけれど、それを日本語に訳したものを出版しています。友達を通じて「The Surfer's Journal」の日本語版を出したいって連絡があって、でもどこの出版社に頼んだらいいか彼らはわからないみたいな感じで、出版社を探して...



奈: 英語同士だったので、そこでガードナーにその話がきたんですけど、ガードナー自体はサーファーではないので、鎌倉のサーファーの友達に手助けを求めて、それで全員でこれを出版しよう! ということで。

G: で、その鎌倉の友達と一緒にNHKのプロジェクトをやったので「こういう話があるけど一緒にやらないか?」ともちかけて、その2人もその雑誌が大好きだったので「やりたい! やりたい!」ってことになって。みんなサーフィンオタクみたいな感じなので、英語で読めなくても、写真が綺麗だからみんな英語バージョンでも揃えてて。

日本語バージョンで中身が読めるんだったら、もっとやりたいとなって。「The Surfer's Journal」のオーナーに会いにカルフォルニアに飛んで、最初に言ったことは「I'm not a surfer, is that okay?」 (三人:ハハハハハ!)

【引っ越してきた年の通園写真】



G: サーフィンのバイブル的な存在になっていて、見たことは何回もあって。話もいいし、写真も綺麗だし...。「The Surfer's Journal」のブランドさえ確立できていれば、別にサーファーじゃなくてもいいって。'05年から「Outdoor Japan Traveler」とoutdoor sportsのフリーペーパー。それは本当の自分の雑誌です。自分で編集してライターを探して写真を選んで。「The Surfer's Journal」は'11年。

どういうきっかけで野沢に？

G: outdoor japanを通してクライアントの人から連絡があって「The Craft Room」が、今あるところの一角が空いているので、何かそこでやらないか？って言われて、そこで「The Craft Room Café」をオープンすることになりました。

本当はoutdoor japanのオフィスをそこに置いてほしいという話でしたんですけど、東北の地震の後だったので、日本の観光が、そしてまた私のビジネスがまだ良くなって...

クラフトビールが好きなので...オレゴンってクラフトビールがすごく盛んなので。日本にもっと取り入れて。というか、まだ野沢に一つクラフトビール屋さんが無かったので。そこでクラフトビールのお店をやったらいんじゃないかと。

僕: それで「The Craft Room」だったんだ！

G: 最初の1、2年はすごい静かで...自分たちでほとんどの(店の)ビールを消費する(笑)

奈: 誰も来ないみたいだなだったんですけど。(ははははは) その時は茅ヶ崎から野沢に行き来をしていて、冬は野沢に来てCraft Roomを手伝ったりとか、滑ったりとかしていたんですけど...3年目からこっちにきたのかな? '14年に家族全員で。

僕: (雑誌の編集は) 出来ますもんね、こっちでも。

奈: そうですね。オンラインとかで。

G: 前は雑誌が中心だったんですけど、だんだんビデオとかオンラインに時代が変わってきたので、そっちの方にシフトしていった感じ。

初めて日本に来たのは'97年。諏訪湖に住んでいました。その時から毎年、野沢温泉にはスノーボードで来ていました。Nozawa Hospitalityさんも、私が野沢が好きだってわかっているので紹介してくれたみたいです。

僕: あ〜そっか。え、じゃあ日本に来るきっかけになったのは？

G: 大学を卒業した後にサイパンに1年間住んでいました。その時はたくさんの...80%が日本人の観光客でした。最初、日本に来た時すごい楽しかった！ハハハハハ！ オリンピックの前だったので色々調べていたのですが、英語のインフォメーション、旅行とか、アウトドアインフォメーションとか雑誌とか、英語で書いてあるものが、その時はあまり無かったので、自分でそういう英語で書くアウトドア雑誌を(日本の)作ったらいいんじゃないか。というアイデアがあって。それでOutdoor Japanを始めた。京都や東京や日光等は外人はみんな行くじゃないですか。そうではなくて、もっと違う場所。日本の田舎、東北のここは本当は面白いとか、日本語で検索したら出てくるけど、英語で検索すると出てこないで自分たちで紹介していこう、と。

奈: この自宅を買った時に自宅の半分をYoji Nozawa という宿泊施設にして、リフォームしてお客さんに貸せるようになったのが2015年。2018年にガードナーの方がWinterlandをオープンしました。

The Craft Roomはデイベさんと共同経営していて、Yoji Nozawaは100%、Winterlandはクリスさんと共同経営です。

僕: Winterlandは餃子がメインですか？

奈: 餃子がメインなんですけど、餃子が5種類くらいあって、唐揚げとかサラダとか他にも色々...。泊まれる部屋は6室。3階にあります。

G: 朝ごはんもあるよ。



【オレゴンのワイナリー】



G: Winterlandの名前はサンフランシスコのライブハウスでローリングストーンズとか、ジミ・ヘンドリックスとか、みんなWinterlandでプレイしました。音楽はその時代の音楽です。

二人のご出身は？

僕: ガードナーさんの出身はポートランド(アメリカ)でしたっけ？

G: 大学はユージーン、オレゴン州の大学。

僕: で、サイパンも行って、諏訪も行って茅ヶ崎行って野沢？ 抜かしてます？ なんか...？

奈: 東京。諏訪から東京。東京から茅ヶ崎... (さらにニュージーランドとオーストラリアにもいたことがあるそう。)

僕: 相当いろんなところに！ で、奈津子さんが山形。

奈: はい。山形出身です。東京にいる時は貿易会社で働いて茅ヶ崎に住んでる時は商社で働いていて、ドイツの車の部品の商社です。ほんとに...OLでした。OL。アハハハハ

僕: じゃあ、その時の写真もお願いします。

奈: ええ！！ 捨てました 笑 (三人:はははは！)

野沢の好きなのところは？

G: 雪は勿論なんですけど、サイクリングがすごい好きで、いろんな坂を登ったりとか、結構色々行ってます。フレッシュエアーもあるし、地域の方も親切で優しいので子育てには凄いいい。

僕: あ、(サイクリングを)やってるんですね！・・・そして酒？

G: クラフトビール大好き！！ 僕: 温泉も行きます？

G: 湯滝、ふるさとの湯、馬曲温泉によくいきます。スノーボードの後の温泉大好き！



奈: りんごも美味しいしね。茅ヶ崎も大好きでよかったけれど、今考えると、道がすごく狭くて、観光客の車もたくさんいたので子供連れは危ない感じ。いい場所なんですけど・・・海も近しい。でも公園とかも常に滑り台並んだりとかブランコに並んだりとか・・・砂場も小ちゃくて・・・この辺じゃ考えられない感じ。

僕: はじめからここに住んでいると、なかなか気づけない部分もあるけれど・・・そうなんですな。

奈: 夏、いつもオレゴンに帰っていたのですが、今年初めて野沢で夏を過ごして、野菜をたくさん近所の方から頂いたり、自分でも育てたりして、新しい発見がいっぱいあって楽しい。

僕: え！どこに畑あるんですか？

奈: 後ろの川の近くに。

G: 初心者だけど楽しかったよ。はははは！

僕: 奈津子さんは？

奈: そうですね。自分も母親なので、子育てがし易いっていうのと、私はサラリーマンの時に通勤がすごい、していたので、電車に乗らなくていいっていう・・・
どこかに遊びに行くってなっても、赤ちゃん連れのベビーカーだと駅にエレベーターはあるか？とか全部調べてから行ってたんで、そのストレスが無くなったのはかなりいいですね。

僕: タイ君は向こうで生まれたんですって？

奈: はい。あっちで2歳くらいまでいて、電車で泣くからお菓子をいっぱい詰めて・・・みたいな。そういう心配が無くなりましたね。

僕: それはリアルですね。

奈: 通勤も適当な服で行けるわけじゃないから、ハイヒール履いて足も痛くなるし。

僕: そっかそっか。あらゆるストレスが無くなりますね。



コロナの中、どうやっていきたい？

G: ベストを尽くすしか無い！（僕: That's right !）

奈: The Craft RoomもWinterlandもYoji Nozawaも全部開けるんですけど、スタッフをいっぱい雇わないで、自分たちでも出来ることをやったりとか、結構、海外のスタッフが多かったんですけど、来れないので・・・自分たちでお店に立ってみたりとか。

G: とても良いスタッフか居てくれて・・・自分たちも他の事で経理とかやっていて忙しいので、オペレーション的な事はお任せしていたんですけど、今年はたくさん滑って、ハハハハハ！
週末はビジネスに当てて。GOTOもあるので日本人のお客さんも入ってきてくれたらありがたいな。

あと、いつも夏はこっちに居なくて、こっちの夏のプロモーションとかは考えて無くて、お客さんも入れてなかったんですけど今年こういう風になったんで、色々ビデオ作ったり、写真撮ったりして、次の夏にお客さんがもっときてもらえるように。
野沢に長く居るんだしたら、もっと夏も活性化出来るような感じでプロモーションしていきたいです。

奈: コロナのおかげで良かった部分もあったかな。



事業の中で、村民にオススメなものは？

G: Winterlandでは、「野沢菜餃子」というものがあるんですけど、アメリカ人の友達が宇都宮の餃子工場の娘さんと結婚して、それでそれが始まったんですけど・・・野沢菜をこっちから送って、宇都宮で加工してもらって、そしてまたこっちに送ってもらう。それが一番おすすめです。シソ餃子、キムチ餃子、カレー餃子 全て、宇都宮から取り寄せています。ベジタリアン向けの餃子もあります。クリスは肉のアレルギーがあるので。それは宇都宮の工場も初めての試みです。

僕: でも、いっぱいいますよね(ベジタリアンの方も)。うちにもたまに来るけど、そういうのは助かるよな～。



G: Winterlandには12個のタップ(ビールの蛇口見たいなアレ)があって、The Craft Roomには8個、WINTER LANDには海外から取り寄せたサイダーなどが飲めるようになっています。キッズメニューや、キッズルームもあります。

奈: The Craft Roomはスキージョウロウの途中で寄ったり、スキージョウロウの前後で寄ったりとか。

G: The Craft Roomはオールプレスのコーヒー豆を、東京以外で初めて使ったお店です。今ではサンアントンでも飲めるようになっています。

僕: その、製法が違うんですか？オールプレスとは？

奈: オールプレスという豆のブランドです。ニュージーランドとオーストラリアのコーヒー豆です。

G: (The Craft Roomは)スキージョウロウのあとで皆んなで飲むような・・・15時16時くらいが混んでいて、大体18時くらいまで？

奈: 私もオレゴンスキージョウロウに行った時に、barがあったのですごいビックリして。みんな飲んでる！みたいな。日本は食堂って感じだから・・・なんだこれは！みたいな。

G: The Craft Roomは一番人気のafter ski。朝もちよっと忙しい。ゴンドラopenの前にコーヒーとか朝ごはん食べて、朝一のゴンドラに乗ったりとか。

僕: The Craft Roomは何時からやってるんですか？

G: 8時オープン。ゴンドラは8:30くらいだからコーヒーを飲んで・・・

僕: いいですね。そういうスタイル。

奈: ぜひ来てください。

G: Perfect day is snowboarding, good powder, and then a beer at The Craft Room and Winterland with friends.

(三人:ハハハ!) **僕:** perfect! 全部仕上がっちゃいますね。

G: ちょっと最近太り気味。ハハハハハ! だから夏はバイク乗らなきゃ。

僕: 毎日ビールですか？(奈:毎日ビールだよ)

日本のみならず、世界各地を見てきたガードナーさん、奈津子さんの口から聞く野沢の魅力は、僕の知る野沢を、また違ったものに見せてくれました。定着した野沢を、「さらに良いものにしていこう」というお二人には、心からの称賛と、同時に「我々も見習わなくては」と、鼓舞してくれるものを感じるのです。子どもも同世代で、プライベートでも親しくしてくれることも非常に嬉しく思います。ガードナーさん、奈津子さん、これからもファミリーでよろしくお願ひします！

この「KENTIMES」をご覧のあなたに！ロビンソンご夫妻からプレゼントです！！



The Craft RoomまたはWinterlandにて、【麒麟ビール・チューハイ・コーヒー 100円引き券】(お一人様1回限り 2021年3月31日まで)

「Yoji Nozawa」 <http://yojinozawa.com> 「The Craftroom」 www.facebook.com/craftroom.jp

「Winterland Lodge & Taproom」 www.winterlandlodge.com

ご予約・お問い合わせは こちらまで

yojinozawa@gmail.com



G: 大体。でも家で飲まない。仕事終わりの一杯を常に友達とやってる。

いっぱい？一杯じゃきかないよ。

奈: 友達が来たりとかリピートしてくれるお客さんと飲みに行ったりとかして毎週、毎週誰かが来てくれるので、それを楽しみに。

僕: いいですねえ。 **G:** 時々大変。でも楽しい！ハハハ！

休みの日は？

奈: 子どもとどこかに行ったりとか・・・長男は飯山のミニバスケットボールで土曜日、日曜日練習あるので、それに午前中行って、私は下の子と一緒に散歩したりとか、友達が来てくれたりとかそんな感じですね。冬は仕事です ハハハ！ハウススキーが土日にならなくてその分遊べない分、子供をスキー教室に入れて仕事したりとか。

G: モチロン、旅行も大好きだよ 大学のあと、オーストラリアとニュージーランドでも働きました オーストラリア、ニュージーランド、サイパン、ジャパン・・・

僕: いいですね。 **奈:** TRAVELERだ。



今後の事業やライフスタイルは？

G: Yoji Nozawaは少しずつ大きく。リノベーションとかして、少しずつ良くなりとか。裏庭が何も無いので、そこで東京の人達がバーベキュー出来るようなスペースを作ったりとかしていきなりたいと思っています。友達が「コーンホール」というアメリカのゲームを作ってくれたのでそういうので遊べるようにしたりとか・・・。あと、もうちょっと旅行に行けるようになったらいいかな。子どももだんだん大きくなって来たので、他の地域も行きやすいかな。

Outdoor Japan に関しては観光協会の人々が海外からのお客さんじゃなくて、もっと日本のお客さんに目を向けていて、もうちょっとプロモーションしてほしい、という依頼が結構来ているのでそれにフォーカスしていこうと思っています。

あと、Yojiに泊まってくれたお客さんに・・・夏、全然お客さん居なかったの、もうちょっと夏に泊りに来て欲しいのと、もっとサマーアクティビティを紹介できたらなあと思っています。

【インタビュー終わり】

ご契約者・インタビューバックナンバー

(河野謙のホームページでご覧いただけます)

「ぽっぽ動物病院」
松川恵さん



「有限会社 丸見屋商店」
河野晃久さん



「リフレイン福沢の癒し処」
福澤美里さん



「やよい農園」
滝沢弥生さん



「and sugar」
高坂沙也香さん



「ambis」
福澤龍一さん



「翻訳家」
辛島・ジェニファー・フランセスさん



「nozawa green field」
河野健児さん



「POWERDRIVE R117」
庚敏久さん



「Body care salonWISH」
白石里香子さん



【タイコア合同会社】

ロビンソン・ガードナーさん、奈津子さん



【連絡先】 河野謙(こうのけん)

住所: 下高井郡野沢温泉村豊郷9829

(横落・Fujiyoshi)

携帯: 080-1294-5162

メール: suberu-hoken@konoken.com

その他 LINE、facebookのMessengerもご利用ください。



ホームページに色々書いています。
<https://konoken.com>

河野謙HP



LINE

